

巻頭言

生物機能開発研究所は、本学におけるバイオテクノロジー研究の拠点、および学部教育の質向上を研究の側面から支援する目的で応用生物学部設立に先駆けて 2000 年 4 月に設置された。生物が持つさまざまな機能を開発・利用して、人類が直面している環境や食・健康の諸問題解決に寄与することを目的に、食品機能、環境評価、先端生命の 3 つの観点から研究活動をおこなっている。現在の主な事業としては、(1) 大型の外部資金獲得のシーズ創出のための研究支援、(2) 学生、院生、研究者を対象としたバイオサイエンス、バイオテクノロジー研究の啓発、(3) 大学院生を主体とした若手研究者の自主的研究活動の支援、(4) 研究紀要の刊行を通じた研究所および学部における研究成果の報告である。

ここにお届けする 21 号には、上記の事業に関して 2020 年度における研究プロジェクト支援事業 (2 課題) および大学院生特別研究補佐員の報告 (10 課題) とともに、生物機能開発研究所および応用生物学部におけるバイオサイエンス、バイオテクノロジー分野の研究について報告が掲載されている。特に本年度は若手研究者育成のプロジェクトが始まっており、若手を中心としたグループ研究の発展を試みた。また、年度中コロナ禍の元であったために上記 (2) に示した講演会、特に例年行われていたバイオサイエンスフォーラムの開催が見送られているが、本号を読まれて読者の皆様がバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する理解を深める、もしくは新たな研究やベンチャー事業等の可能性を発見する、等々の一助となれば望外の幸せである。

2021 年 3 月

生物機能開発研究所

所長 森山龍一